

C.C.Oi

CONTENTS

誕生！広島新名物！……………	1
全労済から「こくみん共済 coop」へ 生まれ変わります。……………	5
Topix……………	7
事務局だより……………	10

6 2019/vol.72



写真は「はくたそ」のフリー素材を使用しています。

平和とより良き生活のために
広島県生活協同組合連合会

誕生! 広島 新名物!



日本のいちじくジャム

広島県は、中国山地沿いの積雪地帯から、温暖な瀬戸内の島しょ部に至るまで

海や山の豊富な自然に恵まれ農水産が盛んで

日本一の生産量を誇るレモン、栄養豊富な瀬戸内海に育まれた牡蠣、

三大漬け菜の一つ広島菜、甘味が強い広島産大豆など、

美味しい物を数えれば枚挙のいとまがありません。

そんな数ある名産品の一つに、尾道市のいちじくがあります。

今回は尾道のいちじくを広島の企業が製造した、

まさに made in 広島の商品！

「日本のいちじくジャム」をご紹介します！



尾道市では柑橘、米、わけぎ、もも、ぶどう、なしなど多様な農産物が生産されています。

尾道の
いちじくは
蓬萊柿

瀬戸内海の温暖で雨の少ない気候は、いちじくの栽培にぴったり。瀬戸の穏やかな潮風と太陽の光を浴びて、大きく甘いいちじくが実ります。

尾道のいちじくは「蓬萊柿」一般的な品種に比べて甘みが強く適度な酸味のあるので、生食はもちろんですが、料理や加工品など、幅広く使われています。



※イメージ写真

「蓬莱柿（ほうらいし）」とは…

平均サイズは60～100gくらいとやや小さめ。果皮は黄緑がかった褐色～赤紫色。

おもに関西以西で栽培。味は良いが日持ちしないため、東日本への出荷量はわずか。

篠原さんの 愛情と 高田さんの 厳しい管理

安全・安心なジャムを作るためには除草剤は使えません。そのため雑草は全て手作業で行うというJA尾道市いちじく部会 副部長の篠原 俊博さん。「最近猛暑が続いているからね。草むしりは本当に大変なんよ。」

「いちじくは水が好きなくせに水を嫌う。水を欲しがるからたぷぷりやると根が腐る。わがままなんよ（笑）。」収穫にも手がかかる。いちじくは気温が上がると傷みやすいため、最盛期には夜中の2時から収穫を行うことも。いちじくは皮が薄いため全て手摘み。ジャムなどの加工品は傷がついたものを使用すると思われるがちですが、ここJA尾道市では厳正な規格のもと、いちじくの振り分けを行い加工用に適したいちじくをジャム製造にまわすという、こだ

わりよう。

「高田さん（JA尾道市営農販売部営農販売課）のチェックはホントに厳しいんよ！絶対に妥協せんからねー。でも、そのおかげで尾道のいちじくは品質が良いねと言われるよ。」と篠原さん。

加工用に振り分けられたいちじくは、手早く冷凍され、鮮度を保った状態で加工メーカーへ送られます。

課題も山積

最盛期で450軒を数えたいちじく農家も、現在は350軒に減少。さらに、いちじく部会会員の大半が80歳以上。いちじくの木の寿命を機に農地を手放す農家も増えており、後継者問題に直面しています。

消費者に喜んでもらうことが、いちじく生産者の課題解決にもつながるはず。「日本のいちじくジャム」に大きな期待を寄せています。



「いちじくの味には自信があります！」

伝統あるいちじく栽培を守る JA 尾道市いちじく部会 副部長 篠原 俊博さん（写真左）と JA 尾道市 営農販売部 営農販売課 主任 高田 利久さん（写真右）

いちじくはわがまま（笑）
なだめすかして育てるんよ

ジャム業界で国内トップの シェアを持つ アヲハタでジャムに加工

徹底的な 衛生管理

今では当たり前になった低糖度ジャムですが、世界で初めて保存料を使用しない低糖度ジャムを発売したのはアヲハタです。フルーツの自然な味わいと香りを大切に、した低糖度ジャムは、甘さ離れが進む食生活にマッチ。現在の主流になっています。

「日本のいちじくジャム」も毎日の食卓で食べ飽きない自然な味わいに仕上げるために、蓬萊柿が持つ本来の甘みを活かした低糖度仕様になっています。

糖度を下げるとフルーツの新鮮な美味しさを楽しむことができず、長期保存が難しいというデメリットも。そこでアヲハタが低



ジャム工場 生産次長
由水 伸行さん

糖度実現のために取り組んだのは徹底した衛生管理。

いちじくは熟すと口が割れ虫が入りやすくなります。JA尾道市において厳しい選別検査とトリミングを行ったいちじくのみ搬入しますが、アヲハタは細心の注意を払い、さらに洗浄。徹底的に異物の混入を排除します。

「異物混入を防止するためにさまざまな検査装置を導入しています。例えば金属探知機は、金属以外のビニール片などは発見できません。アヲハタでは、原料の一次

加工の段階での検査・選別に加え、ジャムの製造工程中においても、ビンに充填する前のジャム状に加工した状態で全量を『目視選別』しています。」



※イメージ写真



外観検査も目視で。最終確認をクリアした製品のみラベルを貼り『商品』として箱詰めされる。

「日本のいちじくジャム」
製造工程

1 配合・低温濃縮

2 目視選別（全量）

3 殺菌

4 金属検出・
軟X線検査

5 充填

6 キャッピング

7 重量確認・冷却

8 外観検査
ラベル貼付

9 箱詰め・出荷



アラハタ株式会社ジャム工場
〒729-2316 広島県竹原市忠海中町 1-2-43

厳しい視線で品質管理に取り組むアラハタですが、フルーツにはやさしいまなざしを注ぎます。

フルーツは やさしく 大切に加工

「アラハタには『農産加工品のおいしさは、原料でその7割が決まる。創意工夫によって、残りの3割の加工技術を高めることが大

切。』という原料調達の基本理念があります。ですから創業から着色料や保存料を使用しない製品づくりが受け継がれています。」

「日本のいちじくジャム」においても、アラハタの理念が込められています。

その一つが「熱をかけない工夫」。「フルーツの豊かな香りと味を活かすためにできるだけ熱を加えず素早く冷却します。」

そのためアラハタでは真空濃縮釜を採用し、ジャムを煮詰める（濃縮する）際、フルーツへの熱によるダメージを最小限に抑えます。また、ジャムをびんに詰める（充填する）前の熱殺菌も短時間に抑え熱によるダメージを軽減しています。

ジャム業界トップ企業が持つオリジナリティの高い製造技術から「日本のいちじくジャム」は作られているのです。



ジャム工場 事務次長
草本 真浩さん

えびといんげんの イチジクマヨネーズソース

材料（2人分）

いんげん（8本）……58g
えび（大）10尾……200g
塩……少々
こしょう……少々
サラダ油……大さじ3
アラハタ 55 イチジク……大さじ2
キューピー マヨネーズ……大さじ2

砂糖の代わりにジャムを使うとフルーツの甘みと香りがいいアクセントになってオシャレなひと皿になります！



写真提供：アラハタ株式会社

作り方

- ①えびは殻をむいて背ワタを取り、塩・こしょうをふる。
- ②フライパンに油をひいて熱し、①を揚げ焼きにする。
- ③いんげんはラップをかけ、レンジ（500W）で約1分30秒加熱し、食べやすい長さに切る。
- ④ジャムとマヨネーズを混ぜる。
- ⑤ボウルに②と③を入れ、④で和える。
- ⑥器に⑤を盛りつける。

※レシピはアラハタ 55 イチジクを使用。「日本のいちじくジャム」も同様のレシピで作れます。



経営本部 広報室
マネージャー
田中 道彦さん



全労済 広島推進本部
事務局長 杉田 和正

全労済から 「こくみん共済 coop」へ 生まれ変わります。

2019年6月、正式名称である「全国労働者共済生活協同組合連合会」（略称「全労済」）はそのままに、「こくみん共済 coop」の愛称で新たなスタートを切る全労済。

少子高齢化、自然災害の多発など目まぐるしく変化する時代や社会にあって、人々の暮らしを支えていくために変わろうとする全労済のこれからを広島推進本部 事務局長 杉田 和正氏に伺いました。

変化する時代や
社会に対応するために
原点に帰る

ますます進行する少子高齢化、激甚化する自然災害、格差社会は拡大し人々が孤立化するなど、多くの方々が社会に不安を抱えています。こうした時代に私たちがなすべきことは何だろう。その答えは『原点』にあるとの思いから、全労済60年の歴史を振り返りました。

たすけあいの輪の歴史

■1954年12月…大阪で火災共済事業が始まる。

■1955年10月…新潟大火発生。労働組合の支援により共済金を支払う。

■1957年…労済連、誕生。

■1965年…団体生命共済が誕生。

■1998年…阪神・淡路大震災をきっかけに全国の協力団体、兵庫県等の協力のもと2500万人の署名を集め、「被災者生活再建支援法」が成立される。

■2011年3月…東日本大震災が発生。被害が大きく、他県へ避難した組合員も多かったため共済金の支払いが難航するが全労災は「最後のお一人まで」を合言葉に粘り強く所在確認を行い、総力を挙げて取り組む。

歴史を見直すことによって、わかったことが『たすけあいの精神こそ、私たちの原点。』

ここにもう一度帰ろう、ここから始めよう。こうして私たちは新しいスタートを切ることにしました。

どんな時も

協力し続けてくれた

組合員・協力団体

全労済の歴史は、私たちにこれから向かうべき方向を教えてくれたと同時に、厳しい状況にあった時も常に私たち全労済を励まし、背中を押してくれた組合員・協力団体の存在の大きさを再認識させてくれました。

それは、絶対に忘れてはいけません。

ですから、どのような時代になろうとも労働者自主福祉を核とすることは変わりません。

さらにその取り組みを広げていくために、**こくみん** みんなのために、**共済**というたすけあいの仕組みを提供する、協同組合（COOP）であることを名称として表すことにしました。

そして、私たちは『共済』を通じて人と人との「たすけあいの輪」を結び『安心のネットワーク』を広げていくことをめざします。

新しい

「こくみん共済 COOP」が

めざす姿

協力団体の皆様と培ってきた『労働者自主福祉』による事業と運動をさらに強化・発展させ組合員の生活を支えていきます。

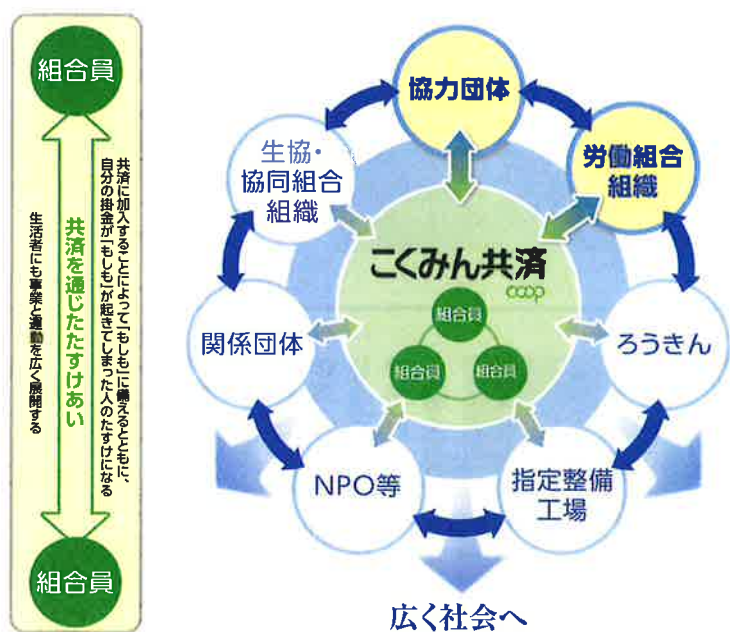
そして、その取り組みを生活者である皆様へも広く展開していきます。

変えないために、変わる

私たち全労済の原点である理念の実現を、これからもずっと追求していくためには、時代や環境の変化に応じて、私たち自身が変化する必要がありますと考えています。

これまでと同様に組合員・協力団体、さらには生活者の皆様のご支援・ご協力を頂くことが大切ですが、そのために、私たちの取り組みを広く発信し、皆様から「応援したい」「参加したい」と思ってもらえる存在になることをめざしていきます。

これからもご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会

coop



広島市で生協2つ目の定期巡回・

随時対応型訪問介護看護が開設

とき 3月28日(木) ところ 生協けんこうプラザ



藤原理事長による挨拶

4月より「定期巡回・随時対応型訪問介護看護 生協かんおん24」と「夜間対応型訪問介護 生協かんおん夜間対応ヘルパーステーション」の2つの事業が開始されました。

開始にあたり3月28日、地元の町内会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、社会福祉協議会など地域住民代表の皆様、地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所の介護支援専門員など多くの方々にご臨席いただき、生協けんこうプラザ（広島市西区観音）にて開所式を執り行われました。

来賓として生活協同組合ひろしま横山弘成専務理事、広島医療生活協同組合斉藤孝司専務理事、広島民主医療機関連合会西村峰子事務局長にご臨席いただき、来賓を代表して広島県生協連の高田公喜専

務理事より祝辞を頂戴しました。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、今後増加が見込まれる認知症高齢者や中重度の要介護高齢者などが、できる限り住み慣れた地域で生活が継続できるように、市町村が指定した事業所が地域住民に提供するサービスです。広島市においては当事業所が15番目、西区では当生協の「生協くさつ24」に続き2か所目の開設になります。2006年4月の介護保険制度改正により創設された地域密着型サービスに位置付けられていることもあり、地域住民の方々が、当事業所に寄せる大きな期待を、ひしひしと感じました。職員一同、地域の皆様から信頼していただける事業所を目指し、日々頑張る所存です。

(報告：広島中央保健生協 田頭嘉直)



決意も新たなステーションメンバー

2019年度

初級職員研修会を開催!

とき 4月17日(水) ところ 広島工業大学 広島校舎

広島県生協連は会員生協の初級職員（入協1年～3年）を対象にした初級職員研修会を開催しました。今年度の参加者は6生協110名のフレッシュな職員たち。

■午前の部

・講義I「生協の多様性について」

広島県生協連専務理事 高田 公喜

・講義II「医療福祉生協がめざすもの」

広島県生協連常務理事 盛谷 博文
(広島中央保健生協 専務理事)

午前中は、「共助」をベースとして事業活動、平和活動、助け合い活動など、多様な取り組みについて講義。なかでも、近年多発する自然災害への迅速な支援活動の事例報告に、参加者から生協への理解がより深まったとの声が多く聞かれました。

■午後の部

・フィールドワーク碑めぐり(平和記念公園内)

生協ひろしま 碑めぐりガイド

・講義III 被爆証言を聴く

中国新聞社顧問 浅野温生氏

・グループワーク「SDGsと私の働き方」

ひろしまNPOセンター事務局長 松原裕樹氏

・レポート作成

・懇親会

昼食をはさんで午後からは平和公園内の碑めぐりと被爆体験を聴く平和学習。毎年プログラムに取

り入れており、今年度も大変好評でした。



ガイドの話に聞き入る

グループワークでは、ひろしまNPOセンターの松原事務局長を講師にお招きして「SDGs」について学習。「誰一人取り残さない」社会の実現の為に掲げられた17の開発目標の中から各々が出来ることをグループワークの中で発表しました。



活発なグループ討議

研修を終えた参加者からは「仲間と共に、講義や平和学習、グループワークを行う事で、交流が深まった。」「生協職員としての意欲が高めることができた。」などの感想が聞かれ、大きな成果を得た研修でした。

(報告：広島県生協連 上原恵美子)

「地域づくりは『小さな協同』から」 地域まるごとフォーラム開催！

とき 5月10日（金）
ところ 広島市総合福祉センター
主催 地域まるごとフォーラム実行委員会

地域の課題解決の一つとして、広島市や周辺自治体、社会福祉協議会、JAや生協等の協同組合、NPO団体、ワーカーズコープ、仕事おこしに関心のある市民など、多様な人たちが154名が参加して「地域まるごとフォーラム」を開催しました。

このフォーラムは、様々な団体が協同し、地域の課題に「地域まるごと」で解決していく実践を作ろうとするもので、広島県生協連は実行委員会の一員として企画、運営に参加。

第1部は「自分たちでつくる地域・くらし・仕事」をテーマに、農民作家の山下惣一氏が講演、農業の効率化、集約化への警鐘を鳴らし、自ら実践してきた「小農」について説かれ、これからの地域づくり、仕事のあり方について投げかけられました。



山下惣一氏による講演



▲積極的な意見交換

第2部は、①小さな農と地域づくり ②生活交通（移動）の確保 ③居場所づくり、をテーマに分科会を行いました。実践している団体の活動紹介や学習、グループワークを行い、参加団体、参加者同士が交流を深めました。

（報告）広島県生協連 福島守

2019 「戦争も核兵器もない 平和な世界を」 市民の集い開催！

とき 5月23日（木）
ところ 広島YMCA国際文化ホール
主催 「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い実行委員会

核兵器廃絶のために、思想信条を越えて市民平和団体が協力して取り組むことを目的とした「2019『戦争も核兵器もない平和な世界を』市民の集い」が開催されました。9回目を数える今年は約150名の方が参加しました。



ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー 林田光弘氏



「ハチドリ舎」安彦恵里香氏

活動報告では、ソーシャルブツクカフェ「ハチドリ舎」の安彦恵里香氏より、地元選出議員に核兵器禁止条約について直接話を聞く「核政策を知りたい広島若者有権者の会」の取り組みについて報告されました。

続いて広島県原爆被害者団体協議会の佐久間邦彦理事長より「ヒバクシャ国際署名」の取り組みについて報告があり、2020年までに140万筆を目標にさらなる取り組みの広がりを呼び掛けました。広島県生協連からは、2019年度の平和の取り組みについて報告しました。

この集いでは、「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現に向けて、一人ひとりができることを考え行動していくことが、市民の世論形成を高めていくことになることを確認しました。

（報告）広島県生協連 福島守

「けんこうチャレンジ2019 はじまるよ！交流会」を開催しました。

とき 5月27日(月) ところ 生協けんこうプラザ
主催 けんこうチャレンジ2019実行委員会

「けんこうチャレンジ2019」開始を前に、広島県生協連、広島医療生協、広島中央保健生協、福山医療生協、日立造船因島生協、生協ひろしま、JA広島中央会共同による「けんこうチャレンジ2019はじまるよ！交流会」が、開催されました。参加者は約70名。

最初に、広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課健康長寿グループ森宏子氏より、広島県の食育・健康づくりの計画と取り組みについて、けんこうチャレンジの目標との関連をわかりやすくお話頂きました。



広島県健康福祉局 森宏子氏による報告

続いてJA広島中央会JA総合戦略部JA総合支援部 市野巧調査役から、JAグループ広島の地域に根差した取り組みや災害対応、健康の取り組みについて報告。



JA広島中央会 市野巧調査役による報告

その後、けんこうチャレンジに関連した実践と学習が行われました。クイズやゲームを取り入れた体験学習に会場内は大盛況！「実践的な内容を幅広く学ぶことができた」「楽しくチャレンジできそう」と大好評でした。



ストローを使った口の訓練をゲームで体験

参加者は「行政やJAの後援があるので普及しやすい」と連携の重要性を再確認。広島県、JA、生協が共同して広島県民の健康づくりに共に取り組むことへの決意を新たにしました1日でした。
(報告：広島県生協連 山下知子)

50万筆突破！

広島県全域で署名に取り組みました。

とき 5月21日(火)～30日(木)
主催 ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会

2018年3月、広島県生協連は広島県被団協などと共同で「ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会」を発足。ヒバクシャ国際署名では50万筆を超える署名(5月時点)を集めました。ヒバクシャの現状、平和活動の取り組みを、県民に広く知っていただき、目標の140万筆署名を達成するために、『ヒバクシャ国際署名ウィークス広島』として加入80団体による広島県全域署名活動を行いました。



JA広島県女性組織協議会の皆さん

■5月22日(水)・JA広島県女性組織協議会30名の皆さんが、JA広島で作った緑色のビブスを着用し、署名活動。
■5月23日(木)・広島県学校生協と広島県教職員組合の署名活動では、関心を持った修学旅行生が署名をしてくれました。



広島県学校生協と県教職員組合合同で署名行動

■5月24日(金)・日立造船因島生協職員と組合員が生協フレニール店頭にて署名活動。

■5月26日(日)・広島医療生協職員と組合員が、広島共立病院で開催した「健康まつり」で署名活動。

■5月28日(火)・ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会30名による署名活動。広島県被団協の吉岡副理事長が、自身のケロイドを見せながら原爆の恐ろしさを訴えると、外国人の女性は涙ぐみながら署名をしていました。さらにJR広島駅北口付近において、原水爆禁止広島県協議会等がサラリーマンや学生に署名を呼びかけ、署名活動を行いました。

今回の全県署名活動では、1514筆が集まり『ヒバクシャ国際署名』をより多くの方に訴えることができました。今後も140万筆達成に向けて引き続き署名行動を行っていきます。
(報告：広島県生協連 山下知子)



災害発生の危険性を いち早く察知しよう！

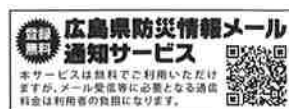
〔警戒レベル〕で避難のタイミングをお伝えします

令和元年5月末より、5段階の警戒レベルを用いた防災情報が提供されることになりました。お住まいの市町から、警戒レベル3、4が発令された場合、速やかな避難が必要となります。各レベルでの取るべき行動を、いざという時のために事前に確認をお願いします。
(詳しくは「減災 はじめの一步 察知」で検索)

広島県防災情報メール通知サービスに登録しよう

お住まいの地域を登録すると避難が必要となるような状況になった時にメールが届きます。災害に備えてぜひ登録をお願いします。

(登録は、右記二次元コードを読み取る又は「広島県防災情報メール通知サービス」で検索)



広島県公式SNSをフォローしよう

広島県では、フェイスブック、ツイッター及びライン@で防災情報や復旧・復興に向けた取組みの情報を発信しています。この機会にぜひフォローをお願いします。



広島県公式 SNS を
フォローしよう！

お問合せ／広島県総務局広報課 ☎082(513)2378

第4回福祉・介護委員会報告

■開催日：2月13日(水)

□主な協議・報告事項

- ・2018年度事業の見通しと2019年度の重点課題について
- ・医療・介護連携について
- ・JAとの交流状況について
- ・廿日市訪問看護一周年企画報告
- ・介護職員スキルアップ研修報告

第1回組織平和委員会報告

■開催日：4月10日(水)

□主な協議・報告事項

- ・2019ピースアクションinヒロシマについて
- ・2019市民平和行進について
- ・2019「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いについて
- ・ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会報告
- ・けんこうチャレンジ2019実行委員会報告

第5回理事会報告

■開催日：4月25日(木)

■出席 理事 18名中 14名出席

□決議事項

- ・情報公開規則の策定について
- ・他団体の公職承認について

□協議事項

- ・2019年度通常総会について
- ・2019年度第1回トップセミナーの開催について

□報告事項

- ・2019「県連生協ゼミナール(仮称)」の開催について
- ・2019「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い開催について
- ・広島県編集責任者会懇談会開催報告

言葉の贈り物

人と人、地域と地域を結ぶために。あの人が綴る明日へのメッセージ



映画監督

ごとう としひろ
五藤 利弘

PROFILE

1968年生 新潟県長岡市出身。

日本テレビ「news every」 「きょうの出来事」 「NNNドキュメント」
フジテレビ「NONFIX」 「ザ・ノンフィクション」 などテレビ番組の企画・構成・演出・
プロデュースや劇場用映画の脚本・演出を担当。

2009年 自身の企画「モノクロームの少女」を映画化、脚本監督担当。

函館港イルミネーション映画祭、長岡アジア映画祭、三陸映画祭、

富士山河口湖映画祭など各地映画祭で招待上映。

以降、劇場用長篇映画や短篇映画などを多数手掛ける。

2017年脚本監督作「レミングスの夏」が函館港イルミネーション映画祭にて観客賞グランプリ受賞。

2019年、脚本監督作「美しすぎる議員」全国順次公開中。その他、単発テレビ番組、短篇映画など多数。

映画『おかあさんの被爆ピアノ』

撮影に至るまで

被爆ピアノとの出会い

この度、10年越しの想いが形になることがとても感慨深いです。

被爆ピアノを映画にさせて頂きたいと思うに至ったのが、2008年から2009年にかけてテレビのドキュメンタリー番組の取材をさせて頂いている時期でした。

広島市在住の調律師の矢川光則さんが、被爆ピアノを4トントラックに載せて全国を回る活動

をなさっている姿を密着取材する中で、ドキュメンタリーでは描きづらい部分、描き切れない部分をフィクションを織り交ぜて劇映画として描くことで、伝えることが出来るのではないだろうかと考えようになり、矢川さんに相談したところ快諾を頂きました。

その頃に制作した監督作で出演頂いた大杉漣さんにドキュメンタリー番組を観て頂き、調律師の役をお願いしたのも2009年でした。大杉さんは「ぜひやろうー」と言ってお下り、被爆ピアノの映画化に向けて動き出しました。

その後、毎年広島に通い、また矢川さんが東京や関東にいらっしゃる際に、被爆ピアノコンサートの様子を見せて頂き構想を深めてい

きました。

しかし、テーマの難しさに僕自身及び腰になることもあり、またテーマの難しさから何度か映画製作が動きかけては頓挫しました。

それでも被爆ピアノを映画にしたいという想いで、一昨年からほぼ毎月広島に通いました。その中で映画の趣旨に共鳴共感して下さる方々も増えていき、少しずつ力を頂くようになってきました。

大杉漣さんの想いを込めて

しかし、映画製作に向けて動き出した矢先に大杉漣さんのご不幸があり、また、物語の主な舞台にさせて頂く広島が昨年7月に大きな災害に見舞われました。

こうしたことから、映画もまた製作が延びてしまいましたが、大杉さんの想いも込めて製作しようという強い意思となり、災害がありながらも広島の皆様がこの映画への応援を続けて下さいました。

大杉さんの遺志を継ぎ佐野史郎さんが引き受けて下さり、AKB48の武藤十夢さんがヒロイン役で出演下さるなど、予想を超えて素晴らしいキャストとなりました。支えて下さる皆様のお力添えがあつてようやく撮影に入ることが

出来、形をつくっていくことが出来ます。支えて下さっている皆様には感謝の想いでいっぱいです。

撮影も終盤 皆様のご支援に感謝

この原稿を書いている時点では、広島での重要なシーンの撮影を終えて一息ついているところです。皆様に読んで頂く頃には撮影を終えていると思います。

撮影が終わっても編集、整音、音楽制作、配給宣伝など映画を送り出すためにまだまだたくさん残っています。2020年に、支えて下さる皆様、応援して下さい。この被爆ピアノの映画をしっかりと育てていきたいと思っています。

映画を送り出すためにもう少しのお力添えが必要です。よろしければご協賛という形で映画と一緒に育てて下さい。

「被爆ピアノ」製作委員会へのご協賛に関するお問い合わせ先

お問い合わせ: eigaibakupiano@yahoo.co.jp
東京事務局: 渋谷区ロタウシ
090-4182-8704(小林)

広島事務局: 090-2296-5254(手島)

広島県生活協連は映画製作の主旨に賛同し協賛しています。

広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11 第7ウエノヤビル 5F

TEL:082-532-1300 FAX:082-232-8100

e-mail:kenren.h@proof.ocn.ne.jp URL:http://hiroshima.kenren-coop.jp

編集後記

今回より、会報誌C.COMを刷新しました。ロゴも温かみのあるイメージに変え、人と人とのふれあいや、地域・生協間の連携を大切にしながら多様性に富んだ内容を提供していきたいと思います。(山下)